

虐待から守る都市宣言

桑名市、6月議会提案

昨夏、炎天下の車の中に放置された乳児が死亡し、母親が逮捕される虐待事件があった桑名市で、市が6月議会に子どもの虐待を防ぐ都市宣言を提案する。希薄になった地域のつながりを深め、虐待防止への意識を高めて対策を進める。

相談急増、死亡事件も

名称は「子どもを虐待から守る都市宣言」を軸に調整中で、「家庭・地域・学校・関係機関・行政が一丸となり、『子どもたちが安心して健やかに成長できるまちづくり』を推進することなどを決意する内容。6月12日開会、7月2日閉会予定の6月議会に提案され、議論される。

市子ども家庭課によると、虐待を防ぐ都市宣言をする自治体は県内初。全国では、いじめ、配偶者や恋人らへの暴力(ドメスティ

ック・バイオレンスII DV)を防ぐことも含めた都市宣言をする自治体があるという。宣言は、警察や主任児童委員会、自治会連合会など36機関でつくる「要保護児童及びDV対策地域協議会」が、昨年1月から検討してきた。桑名市では2002年に小学2年の女兒が母親に殺害される事件が、04年に2歳の女兒が母親の内縁の男に殴られて死ぬ事件が起き、議会から対策を求められたのがきっかけ

だ。検討しているさなかの昨年8月にも、炎天下のパチンコ店の駐車場に止めた車の中に置き去りにされた生後5カ月の男児が死亡し、母親が保護責任者遺棄致死の疑いで逮捕、起訴される事件が起きた。

市子ども総合相談センターに12年度に寄せられた相談でも、虐待に関する相談が全体の3割、1056件と突出しており、316件と突出しており、316件だった09年度の約3倍に上っていることから、宣言は虐待防止に重点を置く。市子ども家庭課の担当者「虐待をしつげたと認識している人もおり、虐待防止への意識がまだ広く市民に伝わっていない。都市宣言を機に啓発活動に力を入れていきたい」と話している。(嶋田圭一郎)

子どもの笑顔を守るまち くわな

「子どもを虐待から守る都市宣言」

子どもは、家族にはもちろん、地域・社会の宝であり、未来を担う希望です。

子ども一人ひとりの豊かな成長は、だれからも妨げられてはいけません。ましてや、子どもの命や心が脅かされることがあってはなりません。

ここに桑名に暮らすわたしたちは、子どもの健やかな成長を願い、子どもたちが伸びやかに生活できることを望みます。

虐待は身近に起こりうることと心に刻み、子育てに不安や悩みを感じている家庭に気を配り、わたしたち全員で子育てを支えるまちにしていきたいと思ひます。

